

## 液化石油ガス設備施工マニュアル 第5次改訂版

## 【正誤表その2】

次のように誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

	正	誤
14 頁 (4) (a) 完全燃焼に必要な空気量と発熱量	一般に可燃性物質を完全燃焼させるのに必要な <u>最小限</u> の空気量を理論空気量*という。	一般に可燃性物質を完全燃焼させるのに必要な <u>最少限</u> の空気量を理論空気量*という。
229 頁 (6) ドレン抜き設置	<p>貯蔵能力が 500 kg 以上の貯蔵設備に係る供給管にはドレン抜きを設ける。</p> <p><u>ドレン抜きは、供給管の立ち上がり部（貯蔵設備から最も近い部分）の下端にドレン溜まりの部分として、当該供給管の最大直径以上の直径であり、かつ、長さ 20 cm 以上の管を設置する。</u></p> <p><u>気化装置を使用する場合は、ドレン溜まりの部分の容量を 5 L（一般消費者等の戸数が 40 戸以下の場合にあっては 3 L）以上となるように管などを設置する。</u></p> <p>また、<u>ドレン溜まりには、ドレンを取り除くためのバルブを取り付けることが望ましい。</u></p>	<p>貯蔵能力が 500 kg 以上の貯蔵設備に係る供給管にはドレン抜きを設ける。</p> <p><u>この場合の管径は供給管と同口径以上の口径で、供給管と同口径以上の口径で長さ 5cm 以上のドレン溜りを取り付ける。容器設置本数が片側 5 本以上の場合は、ドレン溜りを 20 cm 以上とすることが望ましい。また、<u>ドレン溜りにドレンを取り除くためのバルブを取り付けることが望ましい。</u></u></p>